

よ び か け

私どもは、核兵器とその運搬手段の著しい発達、限りのない軍備の競争から生じる不幸な事態を憂慮し、原子物理学者として微力ながら核戦争の人類にもたらすであろう破局について、世の注意を喚起することに努めてまいりました。幸いにして、戦争を防止しようという広般な世論を背景にして、国連総会は1959年に満場一致をもって全面完全軍縮の必要性を確認いたしました。更に今年に入つて18ヶ国軍縮委員会が開催されるに至り、軍縮実現のための諸方策が検討されんとしつつあることは、私どもの喜びとするところであります。またこれとやらんで、今年3月、国連において東西10ヶ国の専門家の討議がまとめられ、「軍縮の経済的社会的帰結」について明るい見通しが発表されたことは、私どもに新たな希望をもたらすものであります。しかしながらその反面諸大国間においては、依然としてはげしい核兵器競争が続けられている現状からも察せられるように、私どもの理想とする全面完全軍縮の実現への途上には、なお多くの困難がよこたわつてゐるかにみえます。

私どもはこのような情勢のもとで、科学者としてだけでなく、広くいろいろな分野において指導的な役割をしておられる皆様にお集りを願ひ、この全人類が何としても解かなければならない問題について、いろいろな観点、いろいろな立場からの御意見をうかがひ、卒直で自由な討論を行つていただくことが、現在必要であり、また有効であると考えに至りました。

周知のごとく、この問題に関しては、国際的には Russell 卿と故 Einstein 博士の声明にもとづくいわゆる Pugwash 世界科学者会議が既に8回にわたつて開かれて、米ソを含む東西の科学者が国籍・イデオロギーの相違をこえて真剣な討議をおこなつております。この会議が基本的な観点について高度の意見の一致をみせたことは、戦争の防止と平和の創造に大きな役割を果たしたものと信じます。

私どもがこの度、別紙のごとき会議を計画いたしましたのは、日本においても Pugwash 会議のような性格をもつ会議を開くことが現在のこのような情勢のなかで極めて重要であろうと考えたからであります。

御多忙中とは存じますが、この会議の重要性をお認め下さいますして、是非御参加下さいますよう、お願い申し上げます。

1962年4月 日

湯 川 秀 樹  
朝 永 振 一 郎  
坂 田 昌 一

別 紙

期日 1962年5月, 7, 8, 9日

場所 滋賀県堅田 東洋紡 求是荘

尚この会議に対して私どもが心に持つております報告と討議の題目  
としましては

1. Pugwash 会議の開かれるまでの経過の報告 ( Russell-Einstein 声明を中心として )
2. Pugwash 会議の経過の報告
3. 国連科学委員会の報告 ( 最近の放射性降下物の問題 )
4. 国連における軍縮問題, 核兵器禁止問題の討議・経過及び現状の報告
5. 核戦争と人類
6. 全面完全軍縮と経済
7. 科学時代のモラル
8. 世界平和と日本

しかしそれぞれの御立場から, これら以外の問題についてもいろいろのお話の出ることを期待しております。

事務連絡先 東京都豊島区池袋  
立教大学理学部  
豊田 利 幸  
京都市左京区北白川  
京都大学基礎物理学研究所  
高木 修 二